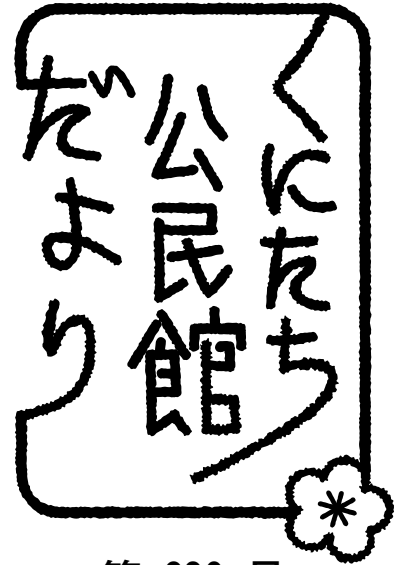


図書室のつどい「財政から読み解く日本社会」講演要旨

お話 井手 英策 (慶應義塾大学)

4月22日(土)に開催された公民館主催「図書室のつどい」では、2015年度大佛次郎論壇賞を受賞した財政学者・井手英策さんをお招きしました。財政の視点から読み解いた、誰もが安心して暮らせる社会に関する講演内容をまとめました。100名を超える参加者が聞き入った講演の一端をご紹介します。



第 690 号

2017年8月5日
(平成29年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

右派・左派をこえて

未来を考える

最近、組合や左派系の団体に呼ばれてお話をする機会が多くあるのですが、組合と言うと左翼だと思えますよね。けれど組合の人に「じゃあ、左翼の人、手を挙げて」と言うと、ぼつぼつとしか手が挙がらないのです。しかしこれほどでも大事なことです。今、世の中で起きていることは、右と左だけでは説明できないことがあります。と同時に、組合だから左翼だとレッテルを貼る必要もないし、左派はこうだ、右派はこうしなればならないというポジショントークは意味のない時代になり始めている気がするのです。大切なことは、特定の立場で、特定の利害のために発言することではなく、平均的な日本人に寄り添うような未来のあり方、あるいはそういう

した政治をつくるための議論をしていくことではないかと思っています。



井出英策さん

今日お話をする僕にとって一番大事なことは、格差です。弱者救済、格差是正、あるいは反貧困、それらの主張では格差は小さくできないという話を今からしようと思っています。今日のキーワードは、「頼り合える社会」です。いつか日本は、人に頼ることが悪いことだという社会になってしまったのか。自分自身の力で何とかしなさい、人に頼ってはいけませんというわけです。何と息苦しい社会かと僕は思います。だからこそ、「頼り合える社会」という言葉で方向性を示したい。

格差と将来不安がひろがる 自己責任の社会

まず、所得推移のデータからみていきたいと思います。実質的可処分所得(税金を引いた後の収入)を見た時、ピークは1997年で、2014年と比べると世帯収入は約20年で2割近く減少、世帯収入300万円以下は全体の34%になりました。個人の収入ではなく、家全体の収入です。これはかなり厳しい数字です。しかし政府は社会保障について現役世代向けの給付の割合を減らし、自己責任で生きていく制度をつくった。それは、自分で働き、その稼ぎで貯金をし、その貯金で老後に備えるという自己責任社会、すなわち貯金がなくなつた時点で人間らしく生きていけない社会をつくり出したのです。社会保障のうち、現役世代に配分される割合が非常に少ないわけです。現役世代は、自分で働き、所得を稼いで、貯金する、そして将来に備える、これが日本です。もし貯金ができなくなれば、子どもの教育、住宅の取得、老後や病気になります。一気に不安な社会がやってくる。それが自己責任の社会です。

日本経済の大転換がありました。企業が借金をする側ではなく、貯蓄する側に回ったのです。企業が貯蓄をするようになると、人件費を削るために雇用の非正規化を始めていきます。そうすると、1997年頃から僕たちの平均給料はどんどん下がりが、僕たちは貯金ができなくなる。その貯蓄は銀行を通じて国債の借入れ、つまり政府への貸し付けに回っているのです。ここで大事なことは、給与の引き下げが始まり、非正規雇用化が進み、貯金ができない社会になってきたということです。2013年、家計貯蓄率はマイナスになりました。貯金しないと人間らしく生きていけない社会をつくってきたのに、貯金ができなくなっている。今、日本社会の将来への不安、生きづらさの根本的な理由は、ここにありま。その結果、働く4代〜60代男性の自殺者が増えました。中間層がどんどん貧しくなり将来への不安に怯える。「老後は安心ですか」の問いに国民の85%が「不安だ」と答えるともんでもない社会を生み出してきました。

分断された「私たち」

一方でこんなデータもあります。日本人に、「あなたの所得階層はどこですか」と聞くと、9割の人

理想は生活保護もなくなることで、もし医療を、教育を、住宅を、介護を、安心して無償でみんなが享受できるようにすれば、生活保護はほとんどなくなり、医療扶助、病院に行くためのお金が足りない人の生活保護が全体の4割です。もし医療が無償化できれば、生活保護の4割は一瞬でなくなる。医療であれ、教育であれ、住宅であれ、介護であれ、誰もが堂々と利用できるような社会を目指すべきではないでしょうか。誰も恥ずかしい思いをすることなく、当然の権利としてさまざまなサービスを利用すればいい。

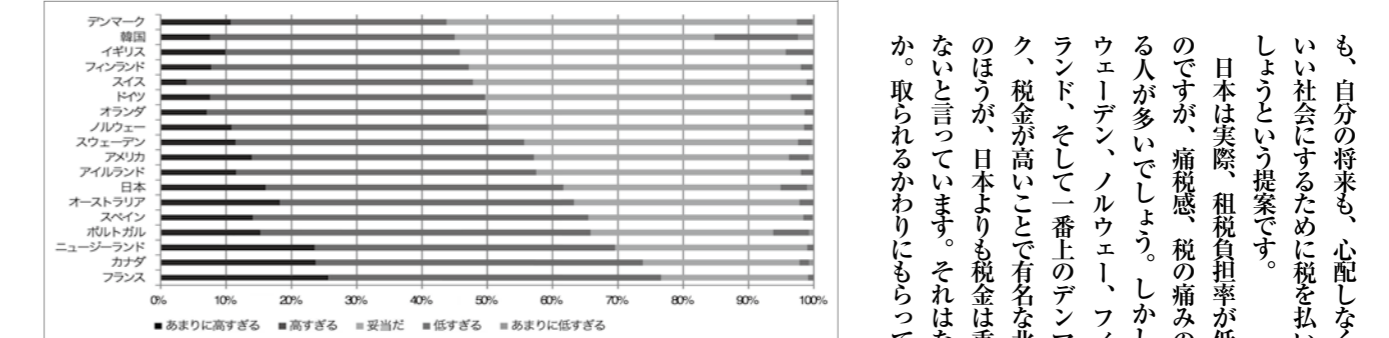
人間の尊厳を平等に保障するために
理想は生活保護もなくなることで、もし医療を、教育を、住宅を、介護を、安心して無償でみんなが享受できるようにすれば、生活保護はほとんどなくなり、医療扶助、病院に行くためのお金が足りない人の生活保護が全体の4割です。もし医療が無償化できれば、生活保護の4割は一瞬でなくなる。医療であれ、教育であれ、住宅であれ、介護であれ、誰もが堂々と利用できるような社会を目指すべきではないでしょうか。誰も恥ずかしい思いをすることなく、当然の権利としてさまざまなサービスを利用すればいい。

が中間層と答えます。どう考えても3割以上は貧しい人がいるはずなのに、9割が中間層と言うのです。残り10%には富裕層も低所得層も入っていますから、貧しいと答えた人はわずかしいいわけです。明らかにこの社会は、所得が減り、格差が大きくなり、貧困率が上がっていて、しかも自分たちが貧しくなっていることに気づいているのに、人々は格差を認めようとしない。
イギリスでEUからの離脱を問う国民投票がありましたよね。そのときに、富裕層は残留、低所得層が離脱と言いました。その真ん中で離脱側にしたのが、所得階層の中間層の下でした。僕はこれを朝日新聞で「中の下の反乱」という言葉で表現しました。アメリカ大統領選挙でも同じことが起きた。「中の下」がどちらの味方をするかで、歴史が変わっているのです。
日本の格差問題も同じです。僕がもし政治家なら「中の下」の人をターゲットにしてこう言います。「あなたたちの暮らしが貧しく、社会保障が行き渡らないのは、低所得層や移民が無駄遣いしているからです」と。あるいはこう言います、「あの人たちはあなたの仕事を狙っていますよ。もしあなた

の仕事を食い散らかされれば、簡単にあなたたちは低所得層に転落しますよ」と。これがポピュリズムです。
「困った人を助けよう、格差は正や反貧困」と言った瞬間に「俺はこんなに一生懸命働いて頑張っているのだから、あいつらも働かせろ」と生活保護パッシングを始めてしまう。転落の恐怖におびえる「中の下」の人たちは、低所得層を敵視し、そうではない人の味方をする。これも「中の下」の論理です。ここが今の日本の政治を、大きな意味で動かしている。平等、自由、愛国心や人権は近代における普遍的価値です。ところがその普遍的で大切な価値を私たちは分かち合えないような集団になってしまった。これを僕は「分断社会」と呼んでいます。
経済成長至上主義の終焉
かつて日本のGDPは先進国の中で1位でしたが、今は27位、悪いデータなら32位や33位と、ぎりぎり先進国入りの状況です。経済を以前のように成長させ、所得・貯金を増やし将来の安心を手にする事ができると思っているのは幻想です。アベノミクスほどのことを行い、オリンピック特需が重くなったにも関わらず、リーマン危

機以前の設備投資水準すら回復できていないのが現状なのです。僕らもう成長はしないと切りまくす。本当の目的は、成長ではなく、将来の不安を取り除くこと、安心して生きていける社会をつくることです。しばらく経常収支の黒字が続く今こそが、勝負です。新しい財政をつくり出し、自己責任の社会を終わらせるために、知恵を使うことのできるチャンスは今なのです。
「頼り合える社会」モデルの提案
イギリスもアメリカも日本も、政府が助けてくれないかわり、自己責任でやりなさいという「小さな政府」です。だからみんなだんだん恐怖におびえていく。これは3つの国に共通しています。小さな政府は何をやるかというと、基本的に弱い人、どうしても働けない人だけを助けます。そうすると財政は、弱い人たちの既得権の固まりみたくになっていく。だから国民は、無駄をなくせと財政をたたくのです。要するに既得権があるから、みんな頭にくてしまふ。だったら既得権をなくせばいい。そうしたら、他人のことを悪く言うってたいたり、怒ったりする必要は全くなくなる。では、どう

するか。簡単です。みんなに配る。貧しい人だけではなく、全ての人たちに配ればいい。そうしたら、あいつが無駄遣いしていると言っ必要がなくなります。
「頼り合える社会」を構築するために必要なのは「高所得者から低所得者まで全員にサービスを給付する」モデルです。すなわち、貧困者の既得権をなくし、定額で現物を全員にサービス給付するという受益の強化です。教育、福祉、医療、介護、子育ては全てサービスです。これら全員に配った時に所得改善率が一番大きいのは最も貧しい層なので、同じ金額のサービスをみんなに配っても格差は是正できる。格差は正の手段は貧しい人を助けることだけではない。受益の強化は結果的に財政再建をし、所得格差の是正もできる。痛みも喜びも分かち合い、なおかつ格差是正も行えるプランです。けがをしようが、病気になるろうが、失業しようが、収入がゼロになろうが、人間らしく生きていける。みんなが幸せになる社会のために、子どもの教育



ISSP Role of Government 2006 より作成。



井手英策さんのプロフィール
慶應義塾大学経済学部教授。専門は財政社会学・財政金融史。著書に『経済の時代の終焉』(大佛次郎論壇賞受賞、岩波書店)、『財政から読みとく日本社会』(岩波書店)ほか多数。

子育て世代の防災講座

～"いつか"はいつも急にくる!!～

講師 アベ ナオミ (イラストレーター、防災士)

子育て中の方やお孫さんを預かることがある方、災害への備えを改めて見直してみませんか。

お子さんが1歳7ヶ月のときに東日本大震災がおき、宮城県で被災したアベナオミさん。お子さんはアレルギーがあり、自宅避難を選択せざるを得ませんでした。震災から6年、いざという時、避難所に行きにくい子育て世代だからこそ備えてほしい……との思いから、毎日コツコツできる「1日1防災」を広める活動をしています。体験をもとにしたお話をうかがい、自宅の防災対策を再確認する機会にしたいと思います。

お子さんとご一緒でも参加いただけます。市民グループ「まめっちょ」による、お子さん向けの工作遊びもあります。お気軽にお越しください。

〈アベ ナオミさんの本〉
『被災ママに学ぶ ちいさな防災のアイデア40』(学研プラス)

とき 9月6日(水) 昼1時半～昼3時半
ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(先着順)
申込先 8月8日(火) 朝9時～
公民館 ☎(572) 5141

これまでの私たちの常識は、金持ちから奪い、困っている人を助けるということ。これがいいことだと考えてきた。しかし違うのではないか。豊かな人と貧しい人とか、人間をお金で区別するのではなく、誰もが安心して生活できるサービスがある社会をつくらなければならない。生活保護のような領域を最小化すること。誰が無駄遣いをしてるのか、誰が不正な受給をしているのかと疑心暗鬼になり弱者を袋叩きにするような政治を無効にし、人間の尊厳を平等に保障していくような、「頼り合える社会」をつくりましょう。
(文責 公民館)

〈図書室のつどい〉
『シンガポールの光と影』
—この国の映画監督たち—
講師 盛田 茂 (立教大学アジア地域研究所特任研究員)

シンガポールの光と影

—この国の映画監督たち—

講師 盛田 茂 (立教大学アジア地域研究所特任研究員)

1965年の独立以降、シンガポールは持続的高度経済成長を達成し、清潔で安全な国として高い評価を得ていますが、一方で、表現の自由の制限や所得格差など「影」の側面も抱えています。

今回は、2006年からこの国の映画監督への聞き取り調査をしている盛田さんを講師に迎え、多民族・多言語・多宗教国家が抱える言語や教育など社会問題について、映画のダイジェスト版を観ながらお話を聞きます。

〈盛田 茂さんの本〉
表題作(インターブックス社)の他、『シンガポールを知るための65章』(田村慶子編、明石書店、第19章「シンガポールの映画」担当)

とき 8月27日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

第56回 国立市民体育祭

主催 国立市体育協会加盟団体
後援 国立市教育委員会
くにたち文化・スポーツ振興財団

ソフトボール大会

とき 一般男子の部 8月27日(日) 10月15日(日)の日曜日、小学生の部 9月10日(日)、同予備日 9月17日(日)
ところ 谷保第三公園、多摩川河川敷公園野球場、処理場上部公園

代表者会議

8月5日(土) 小学生の部 夜5時、一般男子の部 夜6時、総合体育館2階会議室
連絡先 森本090(459) 4062

秋季軟式野球大会

とき 9月3日(日) 10月15日(日)の日曜日(雨天順延)
ところ 多摩川河川敷公園野球場
資格 市内在住・在勤者で編成したチーム
新規加入チームの申し込みは、常時受け付けていますので、左記へ連絡してください。

硬式テニス大会

とき 女複B 9月9日(土)、男複

B 9月10日(日)、女複A 9月16日(土)、男複A 9月17日(日)、混合複B 9月23日(土・祝)、男単B 予選 9月24日(日)、男単A 予選 10月1日(日)、男単年単・女単 10月7日(土)、混合複A 10月14日(土) ジュニア単 10月29日(日)、男単A・B 本戦 11月5日(日)

共通予備日 10月21日(土)、11月4日(土)、12日(日)、19日(日)

水泳大会

とき 9月17日(日) 受付9時、総合体育館 室内プール
資格 市内在住・在勤・在学者・在学
参加費 個人1種目300円、リレーは1チーム千円*小学生は、個人種目1種目100円、リレー1チーム400円
申込方法 8月19日(土)、20日(日) いずれも昼1時半〜4時、総合体育館ロビー。小中学生の参加は父母の承諾書が必要(要印刷)。電話による申込みは受付けません。申込書は総合体育館ロビー。
連絡先 中村(572) 1655(夜)

少年軟式野球大会

とき 9月10日(日) 11月26日(日)
申込先 サンライズテニス(580) 2441、各クラブ理事
連絡先 河守(573) 7782
詳細は国立市テニス連盟HP参照

武蔵カントリークラブ 井コース

アジアダイヤモンドカップ2018開催予定コース
資格 市内在住・在勤者・ゴルフ協会が認めた方
方法 18ホールストロークプレー(新ペリア方式)
登録費 2千500円、賞品代・通信費・参加賞他(前納)
プレー費 特別価格1万9千500円 70歳以上1万8千500円
募集人員 120名(先着順)
連絡先 時田(575) 1188

アクアスロン

とき 11月3日(金・祝)
ところ 総合体育館及び周辺
資格 小学生以上男女
種目 小学校低学年の部 スイム50m・ラン0.5km、小学校高学年の部 スイム100m・ラン1km、一般の部A(中学生以上) スイム200m・ラン2km、一般の部B(高校生以上) スイム300m・ラン3km、親子の部A(小学1〜3年と保護者) スイム50m・親100mラン親子0.5km、親子の部B(小学4〜6年と保護者) スイム100m・親100mラン親子1km
参加費 小学校低学年の部千円、小学校高学年の部千円、一般の部A千500円、一般の部B千円、親子の部A千円、親子の部B千円
受付 8月下旬よりWEBにて
連絡先 吉野090(716) 1068

のり日・祝日

ところ 処理場上部グラウンド
一部(小学5・6年生)、二部(小学4年生以下)
連絡先 稲葉090(2907) 8137

秋季ターゲット

とき 9月28日(木) 12時〜15時
雨天 10月5日(木)

バードゴルフ大会

とき 9月17日(日) 受付9時、総合体育館 室内プール
資格 市内在住・在勤・在学者
参加費 個人1種目300円、リレーは1チーム千円*小学生は、個人種目1種目100円、リレー1チーム400円
申込方法 8月19日(土)、20日(日) いずれも昼1時半〜4時、総合体育館ロビー。小中学生の参加は父母の承諾書が必要(要印刷)。電話による申込みは受付けません。申込書は総合体育館ロビー。
連絡先 岡田090(171) 0791

水泳大会

とき 9月17日(日) 受付9時、総合体育館 室内プール
資格 市内在住・在勤・在学者・在学
参加費 個人1種目300円、リレーは1チーム千円*小学生は、個人種目1種目100円、リレー1チーム400円
申込方法 8月19日(土)、20日(日) いずれも昼1時半〜4時、総合体育館ロビー。小中学生の参加は父母の承諾書が必要(要印刷)。電話による申込みは受付けません。申込書は総合体育館ロビー。
連絡先 中村(572) 1655(夜)

サッカー大会

一般の部・シニア(0-40)の部
とき 10月11日(日)の日曜日
ところ 河川敷公園サッカー場
資格 ①18歳以上の在住・在勤者で構成されたチーム。
②日本サッカー協会認定の審判資格保持者を3名以上登録できること。
③スポーツ保険に加入している。
④ユニフォームを正副2式所有
参加費 1チーム1万5千円
申込方法 ハガキにチーム名、代表者名、連絡先を明記して左記住所へ送付
申込先 〒186-0001 国立市北1-1-7 内堀一博 宛
締切 8月20日(日) 着
連絡先 内堀(577) 3248

バレーボール大会

女子の部 9人制
とき 10月1日(日) 朝9時
ところ 総合体育館
抽選会 9月13日(水) 夜7時、総合体育館2階会議室
資格 連盟加盟チーム及び、市内在住・在勤・在学者(高校生以上)で構成されたチーム
参加費 加盟チーム2千500円、未加盟チーム7千円
連絡先 三橋(313) 4076
男子の部 6人制
とき 10月29日(日) 朝9時、総合体育館
連絡先 佐土原(575) 7661
*詳細は各連絡先まで

剣道大会

とき 10月15日(日) 8時半、総合体育館
ところ 国立第五小学校体育館
試合 基本の部、小学校低学年(4年以下)、小学校高学年(5年以上)、中学生個人・男子、中学生個人・女子、中学生団体戦(男子5名+補欠)、中学生団体戦(女子3名+補欠)、高校生個人(男子)、高校生個人(女子)
資格 市内在住および在校生
参加費 国立連盟会員外500円
申込先 国立剣道連盟にて受付、稽古日(日曜日)朝9時〜11時、水曜日夜7時〜9時、第五小学校体育館にて)に持参もしくは郵送・ホームページから。

ソフトテニス大会

(一部・二部・三部)
参加費 1ペア2千円
申込受付 10月14日(土) 夜6時〜7時、総合体育館会議室
連絡先 丹野(576) 8852、明田(575) 2372

スキー大会

とき 平成30年3月3日(土)
ところ 菅平高原天狗ゲレンデ
種目 大回競技会
資格 市内在住・在勤・在学・連盟会員
参加費 1人千円
申込 平成30年1月末締切
連絡先 田中070(5436) 8291
国立市スキー・スノーボード連盟

バドミントン大会

とき 11月5日(日) 朝9時
ところ 総合体育館
資格 市内在住・在勤・在学者
種目 一般男女ダブルス
(年代別重複可)

秋季卓球大会

とき 11月12日(日) 朝9時開場
ところ 総合体育館
資格 市内在住・在勤・在学・在クラブ・在サークル所属者および連盟登録者
種目 年代別男女、小学生・中学生・青年・40代・50代・60代・70代・80代、一般男女
(年代別重複可)

陸上競技選手権大会

主 管 国立剣道連盟
連絡先 樋口(575) 7599
とき 10月22日(日) 朝9時〜(雨天決行)
ところ 一橋大学陸上競技場
種目 一般男子(13種目) 100・200・400・800・千500・千500・千500・100m(35・40歳以上)、400mリレー、走幅跳、走高飛、砲丸投、円盤投。
一般女子(8種目) 100・200・400・800m、5千m(40歳以上)、400mリレー、走幅跳、走高飛。
高校男子(9種目) 100・200・400・800・千500・千500・千500・100m(35・40歳以上)、400mリレー、走幅跳、走高飛、砲丸投、円盤投。
中学男子(11種目) 100・200m(学年別)、千500・3千m、400mリレー、走幅跳、走高飛。
中学女子(10種目) 100・200m(学年別)、800m、400mリレー、走幅跳、走高飛。
小学生 100m、400mリレー。
参加制限 リレー除き1人3種目、女子は一般、高校の区別なし
資格 市内在住・在勤者
参加費 一般500円、高校生500円、中学生400円、リレーのみ500円、小学生200円
受付 郵送のみ 9月9日締切
連絡先 〒186-0001 国立市北2-1-10 16 関口巳之吉(572) 7454
市制50周年 市民ゴルフ大会
とき 11月6日(日) (雨天決行)

武蔵カントリークラブ 井コース
アジアダイヤモンドカップ2018開催予定コース
資格 市内在住・在勤者・ゴルフ協会が認めた方
方法 18ホールストロークプレー(新ペリア方式)
登録費 2千500円、賞品代・通信費・参加賞他(前納)
プレー費 特別価格1万9千500円 70歳以上1万8千500円
募集人員 120名(先着順)
連絡先 時田(575) 1188

自由形	平泳ぎ	背泳ぎ	バタフライ	個人メドレー	リレー	メドレーリレー	
小学校1・2年生	男女	25m			100m		
小学校3・4年生	男女						
小学校5・6年生	男女						
中学生	男女	50m		100m		200m	
高校生	男女						
一般	男女	25m					
40歳以上	男女						
60歳以上	男女						
チャレンジカップ	男女	100m					
一般	男女	400m					
リレー(160歳以上)	男女	*100mリレーは4名の合計年齢が160歳以上・240歳以上を参加条件とします。					100m(*)
リレー(240歳以上)	男女						

参加費 小中学生と60代以上は500円、一般と他の年代別は700円
申込締切 10月初旬予定
連絡先 外谷(575) 4722
月曜休み

参加費 1人千円
申込 平成30年1月末締切
連絡先 田中070(5436) 8291
国立市スキー・スノーボード連盟

食アレサークル「にんじん」
0歳～小学生の食物アレルギーの子の親で、日々の悩みを分かちあえる仲間と出会えます！
日時 毎月1回、火又は木午前中
場所 公民館、市内集会所など
連絡先 大坂090(3537) 2888

囲碁「碁遊会」の募集
楽しんで頭の体操をしませんか。現在10名で懇親に重きを置いて遊んでいます。10級位の方を対象にしています。親切丁寧な指導も大歓迎です。親切丁寧な指導も大歓迎です。親切丁寧な指導も大歓迎です。
日時 毎週火、日曜日 昼1時～
場所 北福祉会館
連絡先 澤田(522) 4123

プール・NAVYの会会員募集
泳げなくても大丈夫！顔を水につけません。プールでアクアビクスをします。水中は体重が1/10になるので膝、腰の痛む方におすすめて。連絡お待ちしています。
日時 第一、三金曜日 昼12時半～
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 吉田(576) 9340(夜)

ママさんテニス会
女優さんモデルさんがこぞって実践している話題のトレーニングです。産後の体型戻しに、いつまでも若々しい身体作りを始めませんか。赤ちゃんOK体験可。
日時 毎週月、木曜日 朝10時～
場所 グランソニエ国立 E集会所
連絡先 前田090(4958) 5561



〈親子で遊ぼう・考えよう〉 プラネタリウムで星を見よう！

桐朋中学・高等学校のプラネタリウムを使って、四季折々の星座のお話をさせていただきます。天気が良ければ大きな天体望遠鏡や、太陽観測の望遠鏡を見学します。



お話し 桐朋中学・高等学校地学部員 上原 隼 (桐朋中学・高等学校教諭)
とき 8月26日(土) 朝10時半～12時ごろ
ところ 桐朋中学・高等学校 教科教室棟(4階) *入口は北門(桐朋学園通り)です。
用意 上履き、靴袋をお持ちください。(土足厳禁です)
対象 子どもと保護者
定員 65名(申込先着順)
申込先 8月9日(水) 朝9時～ 公民館☎(572) 5141

〈親子で遊ぼう・考えよう〉 科学射的を作って遊ぼう！

講師 山田 修平 (NPO法人東京学芸大子ども未来研究所)
身近な材料を使って5つの射的を楽しみます。磁石や空気、輪ゴムなどで科学の力を遊びの中で体験し、工夫して作ってみましょう。親子で楽しく遊びましょう！

とき 9月3日(日) 朝10時～12時
ところ 公民館 地下ホール
持ち物 炭酸飲料の空のペットボトル(500ml) 1本/人、トイレトペーパーの芯2本/人、動きやすい服装、タオル、飲み物
対象・定員 子ども(3歳以上～小学校低学年)と保護者 20組(申込先着順)
申込先 8月10日(木) 朝9時～ 公民館☎(572) 5141
*この講座は、さまざまな遊びを通して子どもとふれあい、他の親子や異年齢の子どもたちと交流をしながら、大人として、保護者としてすべきことは何かを感じ取り、考えていく機会となるよう実施しています。

公民館運営審議会報告

7月11日(火) 第9回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。
前回事務録確認
報告事項
委員長より、今期公運審の定例会経過および30期答申について意見交換してきた議論の論点整理があった。
館長より、30期答申で示されている「公民館活動をふりかえる会」の具体化に向けた協議および取り組みの実施について提案あり。それを受け、試行的に「公民館活動をふりかえる会」を今年中に実施してみることにした。どのような内容にするか等、たたき台を作成する世話人4名を選出。次回世話人からの提案に基づいて議論する。
協議事項
○公民館だより編集研究委員会 7月号「夏休み直前ふれあいひろば」はイラストが多すぎる印象。しかし内容が新しく、「子ども自転車免許証をもらおう!」が新鮮。
○社会教育委員の会 6月22日(木) 第2回定例会を開催。前期(21期)の答申について話し合われた。
○東京都公民館連絡協議会 委員会研修会を9月2日(土) 昭島市公民館にて開催予定。講師は永田浩三氏(武蔵大学教授)。テーマは「公民館の役割と」。
次回定例会は8月8日(火) 夜7時15分から。傍聴歓迎。(深川)

〈自然講座〉 くにたちの蝶を探してみませんか

講師 佐伯 元行 (国立あおitori保育園 園長)
くにたちで見ることができる蝶は何種類でしょうか。蝶にはそれぞれ好きな花があることをご存じですか。蝶の特徴や生態を知ること、野外観察がもっと楽しくなるかもしれません。
30年以上も蝶を追いかけている佐伯さんをお招きし、前半は城山周辺で観察会、後半は郷土文化館で、大空に舞い、美しい花に集まる日本各地のめずらしい蝶の写真を見ながら、観察の仕方や蝶に関する数多くのお話を伺います。

日時 9月16日(土) 朝10時～12時ごろ
場所 城山周辺(観察会)、郷土文化館(座学)
集合 郷土文化館
持ち物 帽子、タオル、飲み物、虫よけ、筆記用具
定員 20名(申込先着順) *雨天時、座学のみ。
申込先 8月10日(木) 朝9時～ 公民館☎(572) 5141

第62回くにたち市民文化祭 ～市制50周年くにたち文化祭～

今年のテーマは、「市制50周年くにたち文化祭」に決まりました。次の2つの催しは、グループやサークルに関係なく、個人で参加ができます。ぜひ、お気軽にご参加ください。

◎合同いけ花展のお誘い
11月11日(土)、12日(日)に「合同いけ花展」を催します。参加を希望される方は、事前打合せ会にご参加ください。



<事前打合せ会>
とき 8月18日(金) 朝10時～12時
ところ 公民館 3階講座室

◎総合美術展にご出品ください！
高校生以上の方なら、どなたでも出品できます。

出品申込 10月21日(土)～10月22日(日)
受付場所 公民館 3階小集会所
受付時間 朝10時～夕5時



◆総合美術展開催期間
11月14日(火)～11月19日(日)
◆会場…公民館
*詳しくは市内施設で配布のチラシをご覧ください。
事務局 公民館☎(572) 5141

〈学びのデザイン〉 「学び」をつくる対話のワークショップ

講師 長井 雅史 (慶應義塾大学大学院生)
皆さんはどのようなことを学びながら日々を過ごしていますか？ よい企画をつくる術を学んでいる人もいれば、親としてより良い子育ての仕方を学んでいる人もいれば、人とうまく付き合う方法を学んでいる人もいるかもしれません。人それぞれ違う学びをしながら日々過ごし、積み重ねている「学び」が自分の価値観や特徴、性格を特徴づけているのではないのでしょうか。
今回は、そんな「学び」というテーマを中心に皆で話し合います。今までどういう「学び」をし、これからどういう「学び」をしていきたいのか。様々な年齢、立場の人と共にひとりひとりの学びについて振り返り、語り合うことで、今の自分をつくっている「学び」を見つめ直し、未来の自分をデザインしてみませんか。

とき 9月10日(日) 昼2時～4時半
ところ 公民館 3階講座室
定員 20名(申込先着順)
申込先 8月10日(木) 朝9時～ 公民館☎(572) 5141

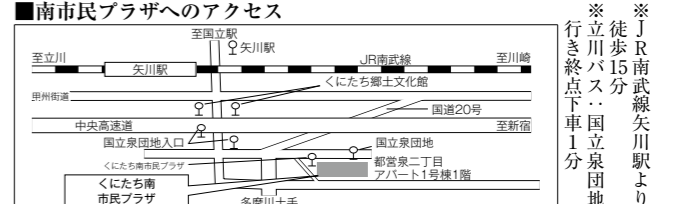
シネボックス 公民館映画会 「むか～しむかし」 ～おとぎばなしの世界～

日本やヨーロッパに古くから伝わり、子どもたちに親しまれた昔話や童話を題材にしたアニメーション作品を上映します。



【上映作品】
〈まんが日本昔ばなし〉
『浦島太郎』『さる地蔵』
『しょうじょう寺の狸ばやし』
語り=常田富士男、市原悦子
〈フランス童話「美女と野獣」〉より
『やさしい怪物』(東ドイツ映画、監督=カチャ・ギオルド)
*何度もアニメや映画になったフランスの名作童話『美女と野獣』を原作にした人形アニメーションです。

とき 8月27日(日) 昼2時～(開場1時)
ところ 南市民プラザ 多目的ホール
定員 50名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。



※JR南武線 矢川駅より徒歩15分
※立川バス・国立泉団地行き終点下車1分

今月の公民館 (8月、9月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 26日(土) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
「プラネタリウムで星を見よう！」
- 27日(日) 昼 *CINEVOX公民館映画会
「むか〜しむかし
〜おとぎばなしの世界〜」
- 27日(日) 昼 *図書室のつどい
「シンガポールの光と影」
- 9月3日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
「科学射的を作って遊ぼう！」
- 6日(水) 昼 子育て世代の防災講座
「〜いつか〜はいつも急にくる!!」
- 10日(日) 昼 学びのデザイン
「『学び』をつくる対話のワークショップ」
- 16日(土) 朝 自然講座
「くにたちの蝶を探してみませんか」

亀の子誕生!!
大井 利雄(中)



ひろば

(7ページにもあります)

ソーラークッカーを作ろう

お日様で料理ができるカンタンなソーラークッカーを作ってみましょう。夏休みのレジャーや研究災害時に役立ちます。資料代500円
スペースF(火・金昼2時〜4時)
日時 8月8日(日) 昼1時半〜3時頃
場所 スペースF(中3〜11-6)
連絡先 担当藤井(573) 4010
憲法とわたしたち連続講座No.49

日本国憲法施行70年にあつて18年間国会傍聴を続けてこられた西川重則さん(ジャーナリスト)は、改めて日本国憲法の本質を学び改悪は許されないと話されます。
日時 8月19日(土) 昼2時
場所 公民館 講座室 資料代500円
連絡先 実行委員(574) 92110

市民交流ロビー利用制限のお知らせ

公民館では、1階から市民交流ロビーへ降りるための段差解消機の入替工事を9月から実施する予定です。工事に伴い、市民交流ロビーではグループでの展示ができなくなります(休憩や交流スペースとしてはお使いいただける予定です)。詳細については分かり次第、公民館だより、館内掲示、市ホームページ等でお知らせいたします。

大人のための教養講座クニラボ

一橋大学他の研究者が哲学・文学歴史等について講義します。①イースラム思想入門②源氏物語③ジョージ・オーウェル④多摩の歴史⑤戦国時代⑥ラテン語各四回八千円
日時 9〜12月各月一回夜7時
場所 リトマス 国立駅南口3分
連絡先 事務局(576) 26662



〈サークル訪問3〜〉 起立性調節障害 くにたちソレイユ

「起立性調節障害(OD)」を皆さんはご存じですか？

成長期に多い自律神経失調症で、軽症も含めると、思春期の5〜10%が該当すると推定されています。朝起きられない、立ちくらみ、頭痛、倦怠感などを感じる病気で、午前中調子が悪く、遅刻や欠席が増えて、午後は回復することもあるため、怠け・さぼり等の心の問題と誤解されて辛い思いをしているお子さんがとても多いそうです。

「起立性調節障害くにたちソレイユ」は、昨年七月から定期的に行われてきました。「安心して話して、情報交換し、共感できる場にと考えている」と、代表の片岡さん。訪問した日も、十数人のお母さんたちが市外からも集まり、自己紹介から子どもの様子を語り合っていました。これまでは母親のみ参加だったという娘さんが、自分も参加してみたいといらしたのが印象的でした。最初は緊張していた方も、悩みながらも乗り越えて学校も卒業できた経験談や、専門医が近くにいるという情

報を聞いたりでき、来てよかったと安心して笑顔になっているようです。

周りに同じ病気の子どもがいなくて孤独になりがちなので、仲間と手を取り合い、考えていきましょうと活動しています。

親以外にも、教育・医療関係の方の参加もあるそう。もしかしたらと思った方は、ぜひ参加してみたいかがでしょうか。

連絡先 片岡(525) 71222
BOBアドレス
odkunitachi-soleil.blog.jp/
〈文・写真 鶴田美緒〉



場所・日時など参加の詳細は、ブログをご覧ください。